

# もみじ

— 広島県山岳連盟会報 —



一般社団法人 広島県山岳連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL

<http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

## 宮島の自然保護

### 世界の宝、宮島を未来に引き継ごう



宮島観光大使

山崎 美和

新年登山では弥山は大変な賑わいでした。宮島は全島が国の特別史跡、特別名勝。国立公園特別保護区。世界文化遺産には厳島神社と前面の海、背後の弥山原始林（天然記念物）を含む森林が登録されています。その管掌地帯は、宮島のほぼ全域に及びます。まさに世界の文化財「宝の山」です。

それを守るためには、自然公園法、文化財保護法、更にラムサール条約登録湿地は、非公開とされている。国の絶滅危惧種である「宮島トンボ」は県指定の野生動物種で、採取などに懲罰もあります。また、国立公園内の動植物採取は禁止されています。

山を愛し、自然を愛する岳人なら、貴重な自然が残存する宮島を体感され、なぜ、日本で唯一「宮島トンボ」が生存するか理解されると思います。

さまざまな法令や、年中海岸から山頂までゴミ拾いや清掃活動、環境活動に汗を流す人たち。また、ふもとでは神仏の宿る島であると、山を崇拝し、格段に自然を大切にされ守っておられるのは、宮島の皆様の賜物でもあります。

近年、観光客、登山者の増加に伴い、ゴミ投棄、植物の盗掘、森林地への多数の踏込による裸地化、赤塗料問題、M山頂の生木伐採損傷、多発する遭難などトラブルも起きています。

弥山登山ルートは

紅葉谷、大聖院、大元ルート

現在弥山登山道の公式ルートは紅葉谷ルート、大聖院ルート、大元ルートとなっています。

それ以外のコースは印刷物等から削除が要請されまして、宮島は、林野庁、財務省、環境省、文部科学 (2 頁へ)



写真は第 22 回比婆山スカイランのポスター

省、県有林などの所管で、申請などには複数官庁に及ぶ場合があります。「一足十年」とは、一足を踏み込めば回復するまで十年を要するとの意味で、岳人の心得ですが、湿地であれば、ダメージは更に大きくなります。

外国の観光客の中には宮島の自然を楽しみたいとの要望もあります。私たちは地球人として自然に優しい歩き方をして、世界の宝である宮島を未来へと引き継ごうではありませんか！（やまさき みわさんは、日山協自然保護指導員・日本自然保護協会自然観察指導員・広島やまびこ会）

### 森林管理署による損傷調査

写真上 30本の黄テープ 写真下 切り落とされ枯葉の目立つ樹木 三ツ丸子 西峰 平成22・1・29



### 日韓交流報告

## クライミングで山下嬢優勝

大邱広域市「八公山岳祭り」参加と「八公山」登山

杉本陽二

訪問先：大邱広域市「八公山岳祭り」参加と「八公山」登山

期間：2013年10月4日（金）～7日（月）

参加者：岡谷良信 豊田和司 杉本陽二 錦織宏美  
錦織瀬奈 山下真由 李尚起（通訳） 以上7名

### 写真は山下嬢 決勝クライミング



今回の交流は大邱広域市山岳連盟と広島県山岳連盟の交流が始まった1999年11月から数えて20回目となる（70年の歩み交流の記録による）。広島から新幹線で福岡まで行き、福岡港から高速艇で釜山まで行きました。迎えの車で大邱へ。「八公山温泉観光ホテル」にチェックインしました。

10月5日は、監督、選手の3名はクライミング会場の視察とトレーニングへ。岡谷、豊田、杉本の3名は大邱広域市山岳連盟の3名と八公山の裏山から登山に出発しました。途中滝やお寺を見学しました。頂上へリポートでの昼食ラーメンを美味しくいただきました。下山後「八公山岳祭」に参加しました。

10月6日、選手監督は朝6時にクライミング会場に向かいコンディションを整えました。予選通過なるか心配しましたが、難なく突破。本戦では最後の方になり、決着がつくのが夕方暗くなり、いささか疲れしました。結果は山下嬢は優勝、錦織君は10位の成績でクライミング大会は終了しました。選手のみなさんは大変頑張りました。

大邱広域市山岳連盟の皆様には連日の歓迎会や「おもてなし」で大変お世話になりました。

10月7日は釜山まで車で送っていただき、ちょうど台風23号と24号の合間をぬって高速艇で福岡まで帰りました。今回は、高速艇を利用しましたが往復ともフ~~杉~~ーを利用することが出来ます。山岳連盟主催ですので山登り、クライミング競技と目的をはっきりとして募集すれば、参加者が増えるのではないかと思います。





写真は八公山裏口登山口にて

## 平成25年度冬山技術講習会

### 謙虚な気持で山に臨んでいますか

日程：1月8日(土)～9日(日)

山域：三瓶山(島根県)

人数：23名(スタッフ含む)

「あなたは謙虚な気持で山に臨んでいますか？グループ内での行動を把握していますか？」今年も初級クラスと中級クラスを募集し、雪も十分にあったので予定通り研修が出来ました。

遭難対策委員長 堀内輝章



### 冬山講習 in 三瓶山

#### 西本ちとせ

1月8日、9日の冬山講習に初参加しました。当日の三瓶山は雪がかなり深く近くを歩くのも雪がサラサラして足場を作りにくい状態。後で話を聞くとザラ

メの雪は雪崩をおこしやすいので気を付けないといけない雪質。私自身、初体験の雪質でした。

1日目の午前には机上講習。その後荷物チェック。オーバーグローブ、スパッツの選び方の説明など。話を聞くと足りないものがありました。昼食後はラッセルしながら足慣らし。歩き方からピッケルの持ち方、わかんやアイゼンの装着確認。夕方、ケビンに戻ってロープの結び方をならうのですが。講習が終了するがピンとこない。夕食の準備を始めるスタッフの傍らで補講ならぬ結び方の再確認。なんとか納得して皆と夕食。自己紹介からはじまり山の話で談笑。

2日目、早朝から山頂目指しラッセルです。こんな長いラッセルは初めて。ピッケルを使ってラッセルする方法も学びました。中腹からはスタッフのラッセル隊にお任せして無事登頂！その後、風を避けて滑落防止技術の講習。終了後は誰も歩いていないふかふかの雪を楽しみながら下山。有意義な時間でした。

## 第1回登山教室を終えて

### 前回よりパワーアップ

日程：1月25日(土)～26日(日)

登山形態：雪山講習 場所：大山(鳥取)

人数：5名(スタッフ含む)

今回は雪上歩荷と雪洞体験という事で、前回下見した大休峠に行ってみました。踏み跡のない新雪のなかでのルートファイティングと緊急時のビバーク方法、斜面でのダガーポジションの練習と皆さん前回よりパワーアップしたと思います。

指導部 森本 覚



写真は雪洞にて

## 積雪期の歩行訓練と雪洞体験

登山教室 近藤 聡

1 1月から始まった大山での雪山訓練もこれが3回目。今月は先月、日帰りで往復した大休峠避難小屋までの歩行訓練と雪洞構築。

前回も雪がありラッセルも経験したが、ルートはマーキングがしっかりあり、標識も確認できてルートを違えることはなかった。しかし、雪の量は前回と雲泥の差、1月25日の大山(標高875m地点)の積雪は207cm。ところどころマーキングが確認できたもののルートは完全に雪に覆われ、コンパスで頻繁にルート確認が必要な状況。特に帰りの26日は27cmの降雪があり、GPSの助けを借りてルートと現在地確認をしながらの歩行となったため、往路・復路ともに6時間を超える行程となった。

大休峠では初めての本格的な雪洞体験。斜面で2カ所をL字型に削り取った後、小さな入口から奥に向かって掘り進み、次に横に掘り進んで最終的に横穴を連結。十分な雪があったことから3人寝ることができる広さを確保でき、入口をツェルトで覆えば隙間風も気にならず、スタッフの準備していただいたろうそくを灯せば、雪の中とは思えないほど趣のある空間が出来上がり、朝まで過ごすつもりで寝袋に入る。

残念ながら、土木工事の不手際(天井に薄いところが出来ていた)と、夕方からの雨のため天井からの漏水がひどくなり、夜半には避難小屋への撤収を余儀なくされたが、貴重な体験ができた。

同じ雪洞でもスタッフが作られた平面を2カ所から掘り下げ、横に連結させた雪洞はまさにビバーク用。横にはなれないものの、足を延ばすことができる空間を確保すれば、風も防げて緊急時の対応に十分に対処できるものであった。

十分な雪があったことから貴重な雪洞体験ができ、さらには大休峠から望む水墨画のような山並みと、雲間に垣間見えた烏ヶ山等々、教室とは思えない感動の機会を設定していただいたスタッフに感謝します。

## フォト俳句⑤

山頂に何を求めて雪の尾根

俳句・写真 江種幸男



## 広島山岳平和祭



### 広島山岳平和祭へのお誘い

2014年11月23日(日)朝9時広島平和記念公園・祈りの泉にお集まりください。

### 登山を考える

日本の主要山岳団体は行政の指導で「公益社団法人」として登山を通し社会の一員として責任や使命を果たしなさいとシグナルを発信した。この根底には登



山者自身の意識や自覚を正しく持たなければいけないことからの登山の価値観が問われている。

遭難しなくていいところでの遭難事故、登山者のマナーやモラルの低下、自然保護精神の無知、チャレンジ精神の欠如、登山秩序の無関心など等、登山者自身の問題と受け止め、登山者一人ひとりが登山者として登山者の責任や使命を果たす登山環境づくりがこれからの登山を考える基本的な姿勢と考える。日本山岳協会や日本山岳会、日本勤労者山岳連盟が登山界をつくったり動かしたりするものではなく、登山者一人ひとりが登山界の一員であり主役であるという意識が芽生え育たない限り登山の登山界の進展はない。

日本山岳平和祭に登山者の心意気を見たい、見せたいと集まろう！ 写真はアジア山岳連盟加盟国



## 資料：「山の日」をつくろう

### 全国「山の日」制定協議会設立趣意書

日本は国土の7割近くを山地財産がしめる山の国で

す。古くから山に畏敬の念を抱き、森林の恵みに感謝し、自然とともに生きてきました。山の恵みは清流を生み、田畑を潤して我が国を囲む海へと流れ、深く日常生活とかかわりながら豊かな心を育んできました。

私たちは、愛する日本に、国民の祝日「山の日」を制定することを提案します。「山の日」は山の恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、次の世代に継ぐことを銘記する日です。山々が身体や心の健康に、欠くことのできない国民の財産であることを再認識し、山との深いかかわりを考える日にしたいと思います。

我が国の文化は、「山の文化」と「海の文化」の融合によって、その根幹が形成されたといわれます。しかしながら「海の日」は祝日とされているのに、対をなす「山の日」は除かれています。日頃「山」と親しんでいる私たちは、この事を極めて残念だと思い、山がいつまでも心のよりどころであり続けるため、「山の日」制定に広く国民の理解を求めたいと考えます。

ご存知のように国民の祝日は、国民と国会が決めることです。その国会では、すでに超党派の国会議員団による「山の日」制定議員連盟が活動を続けています。私たちは、地方自治体、各種民間企業、自然保護団体、学術団体、登山等野外活動団体など、山に係る広範な人々力をひとつにして、全国「山の日」制定協議会を立ち上げ、「山の日」制定の実現を国民と国会に働きかけたいと思います。

富士山の世界遺産登録は、その文化、伝統、景観への憧れ、すぐれた芸術の創出など、様々な要素を世界が大切な財産と認めたからです。その一方で、山はいま多くの問題を抱えています。山林の荒廃、良質な水源・資源等の確保、各種開発と環境保全、動植物保護と適正管理、観光等地域活性化と適正利用、登山愛好者の遭難事故多発、東北の山々の除染など。将来を見据えた「山」のビジョンが求められています。

「山の日」の制定が課題解決に向けた重要な契機となることを祈念し、みなさまの全国「山の日」制定協議会へのご参加を心からお願いいたします、

全国「山の日」制定協議会 発起人一同

**岳連短信**

岳連事務局新年会・亀井氏お帰りの会

2014・1・20 写真提供 小林敏行(可部山岳会)

**一般社団法人 広島県山岳連盟 役員**

2013・5・12

会 長 京才 昭(広島山岳会)  
 副会長 山田雅昭(広島山岳会) 理事長  
 野島信隆(マツダ親和会山岳部)  
 岡谷良信(JAC広島支部)  
 綿谷弘志(福山山岳会)

理 事 松島 宏(クライムハイ)  
 伊東泰文(修大山岳会)  
 永津信吉(マツダ親和会山岳部)  
 豊田和司(JAC広島支部) 事務局長  
 名越 實(広島山岳会)  
 村井 仁(県庁山の会)  
 仲井正美(ひこばえ)  
 福永やす子(東広島山の会)  
 福永輝彦(高体連登山部)  
 後藤裕司(広大山の会)  
 宇山茂之(庄原山の会)  
 佐藤 建(修大山岳会)  
 香川正臣(マツダ親和会山岳部)  
 新山まゆみ(JAC広島支部)

以上 19 名

監 事 野々下耕生(税理士)  
 林 雅晴(高体連登山部) 以上 2 名

**3月行事予定**

3・1(土) キッズクライミングスクール(県立体育館)  
 3・1(土)～3・2(日) 中国地区山岳連盟(協会)連絡  
 協議会(島根県)  
 3・5(水) 机上講習会  
 第5回普及部会  
 3・12(水) 第12回運営委員会  
 ビギナーズブレスン(県立体育館)  
 3・15(土)～3・16(日)  
 高体連春の合同キャンプ(柳瀬)  
 3・15(土) キッズクライミングスクール(県立体育館)  
 3・16(日) 登山教室・例会山行猿政山

**山の風景 39**

聖湖に映る臥竜山 2013・11・5

写真提供 森 智昭(ひこばえ)

**編集部より**

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想・写真など気軽にお寄せください。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○各研修会、講習会へ参加された方は積極的に報告書を提出ください。随時掲載いたします。

|        |       |    |      |
|--------|-------|----|------|
| 題字デザイン | 今村みずほ | 編集 | 仲井正美 |
|--------|-------|----|------|